

コミックイラスト志向の美術専攻学生へのストレス対処支援

○小林美佐子 (早稲田大学)
岐部智恵子 (お茶の水女子大学)

菅谷 充 (京都精華大学)

キーワード：レジリエンス、コミックイラスト志向、ストレス対処支援

問題と目的

芸術系の大学の志願倍率は年々増加しており、中でも漫画・アニメやデザインの志向者が多く(喜始, 2019), 「絵が描きたい」という理由で入学する学生が増える傾向にある(喜始, 2014)。特にライトノベルやソーシャルゲームのイラストにあるような、かわいい女の子を描くコミックイラストを志向する者が多い。芸術活動は他者と関わらず一人で作品制作に長時間没頭するため、コミュニケーションが苦手な学生も多い。長時間座位で絵を描くには体力が必要であるが、心身の健康問題が入学前から継続している場合もある。また、感性や手先の器用さなどから、技術面の優劣がつきやすく、他者の作品との比較によるストレスもある。さらに、芸術系、特に美術系学科での就職者率は、大学卒業生全体の就職者率と比べて、一貫して低いまま推移している(喜始, 2014)。美術専攻学生の大学生活におけるストレスは、学業や人間関係などの他にも、技術面や就職率の低さなど多岐にわたる。しかし美術専攻学生の心身の健康増進のための対策は行われていない。また大学で何度もプログラムを行う時間的余裕もない。そこで美術専攻学生へ予防教育を目的として 90 分のレジリエンス・ワークショップ (以後 WS) を行い、WS の効果の検討と、学生の自己認識とストレス対処法の調査を実施した。

なお、本 WS は実施校の「人を対象とする研究倫理指針」に沿った手続きを経て行われた。

方 法

調査対象者

2019 年 4 月に芸術系大学で学ぶ美術専攻学生 1 年生 98 名 (留学生も含む) を対象に行い、有効回答 70 名 (男子 23 名, 女子 47 名) であった。

ワークショップと測定尺度

WS は「SPARK Resilience」(Boniwell&Ryan, 2009) を日本向けにローカライズした「日本語版 SPARK レジリエンス」(ボニウェル, I., 2014) をもとに困難なことがあっても乗り越えていくための知識やスキルを予防的に学ぶ内容で行った。WS は 90 分間で、WS 前後の質問紙調査と途中の休憩を含め 120 分で行った。

測定尺度は、二次元レジリエンス要因尺度(平野, 2010)、自尊感情尺度(山本他, 1982)、特性的自己効力感尺度(成田他, 1995)、3 次元モデルに基づく対処方略尺度(神村他, 1995)とした。フェイスシ

ートでは、体力の有無について自己報告を得た (以後主観的体力)。回答は任意であることを質問紙に添え、無記名とした。

結果と考察

二次元レジリエンス要因尺度を用い、学生の自己認識とストレス対処法を検討したところ、資質的レジリエンス要因の高い学生 (高群) は、そうでない者 (低群) と比較して WS 前は獲得的要因 ($t(68)=3.10$, $p<.01$), 自尊感情 ($t(68)=2.46$, $p<.05$), 自己効力感 ($t(68)=5.95$, $p<.01$) が、WS 後は獲得的要因 ($t(68)=2.46$, $p<.05$), 自尊感情 ($t(68)=3.00$, $p<.05$), 自己効力感 ($t(68)=4.90$, $p<.01$) が有意に高かった。また、資質高群はネガティブな経験に際し肯定的に解釈をするコーピングの「肯定的解釈」方略が ($t(68)=1.69$, $p<.10$), 低群は放棄したり諦めたりしやすいことを示す「放棄・あきらめ」方略が有意に高い ($t(68)=2.16$, $p<.05$) ことが示された。

他方、WS 前後の比較では、資質得点の伸び率は資質低群の方が有意に高く ($t(68)=2.00$, $p<.05$), 主観的体力あり群は WS 後の資質 ($t(68)=3.72$, $p<.01$), レジリエンス ($t(68)=2.46$, $p<.05$), 自己効力感 ($t(68)=2.38$, $p<.05$) が体力なし群より有意に高かった。以上の結果から、WS は資質的要因が低い学生と、体力があると自認する学生に有効である可能性が示された。さらに、WS 後、受講生全体の資質的レジリエンス要因 ($t(69)=2.69$, $p<.01$) と、自尊感情 ($t(69)=1.77$, $p<.10$) が有意に向上したことから、SPARK レジリエンス WS は 90 分であっても、学生の自尊感情と資質的レジリエンス要因の自己評価を向上させる効果があることが示唆された。

引用文献

- 喜始照宣 (2014). 芸術系大学出身者と労働 日本労働研究雑誌, 645, 50-53.
- 喜始照宣 (2019). 美術系高校・大学への進路はどのように選択されるのか—大学生への質的・量的調査をもとに 園田学園女子大学論文集, 53, 41-60.
- ボニウェル, I. (Boniwell, I.) (2014). SPARK レジリエンス指導書 (足立啓美・鈴木水季監訳) 一般社団法人日本ポジティブ教育協会 (原著は 2009) Boniwell, I., & Ryan, L., (2009). SPARK Resilience: A teacher's guide. London, UK: University of East London.